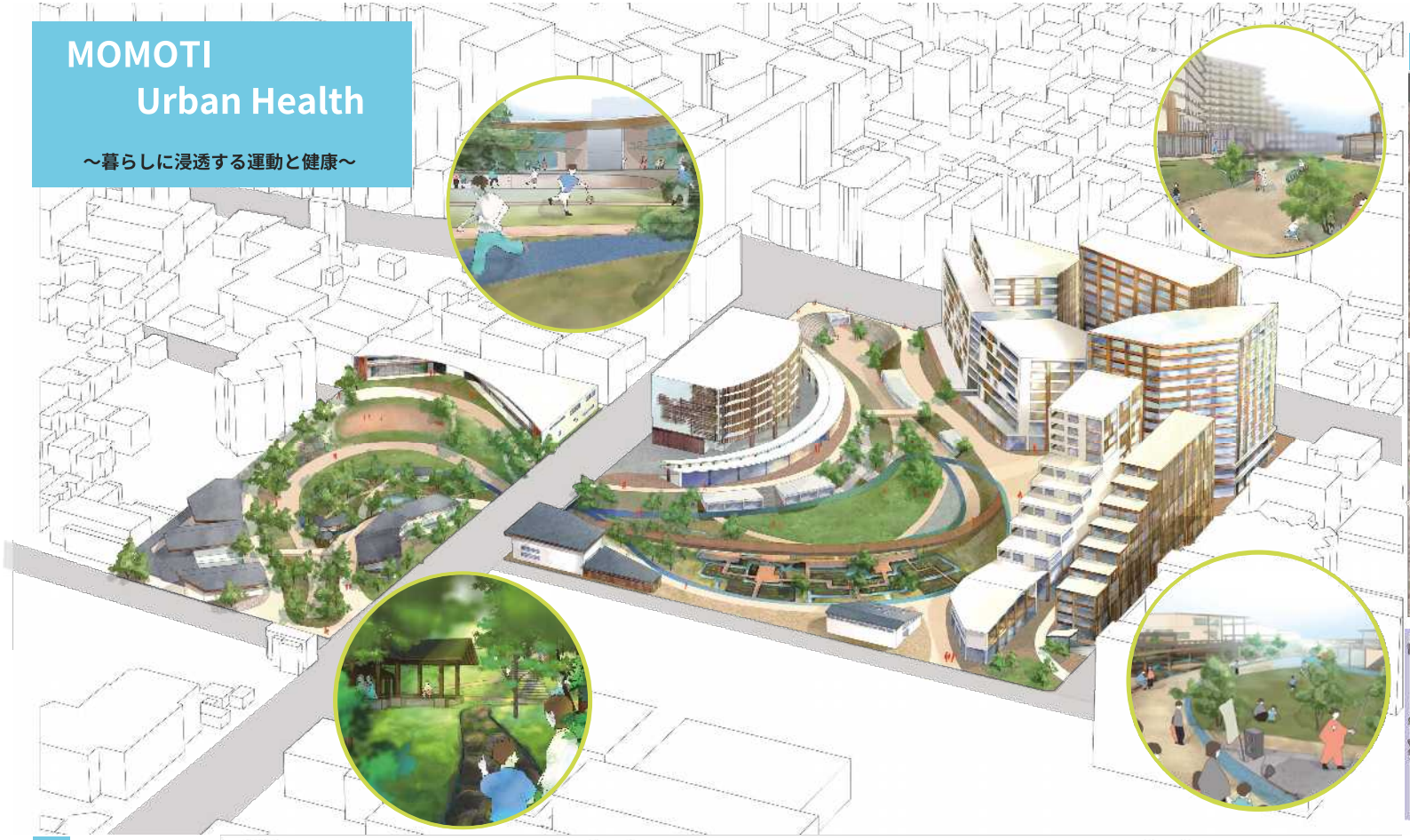
# MOMOTI
# Urban Health

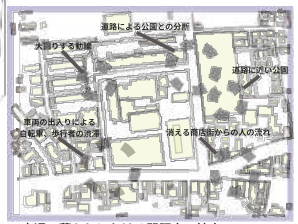
## ～暮らしに浸透する運動と健康～



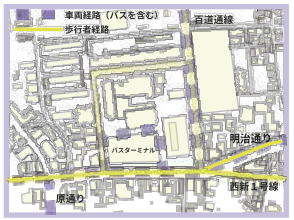
## 01 敷地分析

天神から地下鉄で 10 分程度の本敷地はベットタウンとして機能し、住宅が集中している。周辺には福岡タワーをはじめ観光名所が集まる。糸島と博多に挟まれる藤崎は通過点として利用される印象を受ける。
住宅街で建物が多くあり、運動と人々の暮らしの距離感が遠く感じられた。

原通り、西新一号線と接する明治通りと百道通線に面する敷地は多くの歩行者と車両が通過する。また周辺には千眼寺や元寇防塁、海浜公園など街の中に緑が点在する。商店街へ道が分岐するため人の流れが変化する。




・交通、暮らしにおける問題点の抽出




・車両と歩行者の流れ

## 02 百道から創る街の活気

生活問題の現状

都市に住む住人の健康には、水や空気、居住環境、教育や都市の整備等、様々な要因によって影響を受けており、個人の努力では解決できない部分がある。健康はどの世代にとっても重要であり、長い期間をかけて考えていくため
都市のスケールからアプローチする。
また建物の乱立により、人々が安心して歩く場所、過ごす場所が少なくなっている。

住民の声

・マンションの乱立で景観があまりよくない
・バスの渋滞
・自転車、歩行者、車の交錯が多い
・大通り沿いの車の騒音
・遊具の整った公園が少ない

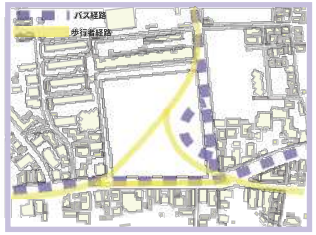
構想
環境要因を都市スケールでかんがえ、人々の暮らしに寄り添うまちを提案。
住民にとって運動、健康を身近な存在にすること。

・木を基調としたデザインで安らぎを与える。

・低いレベルにあり自然に囲まれた連続的な広場には、都市のストレスを感じさせない、運動の場、憩いの場を生む

・百道の名前の由来である「百の道」を作り、交通渋滞の解消と歩く道の多様化を目指す。

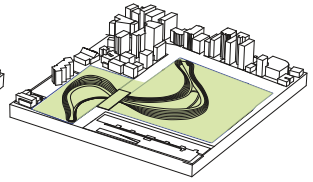
・緑と商店街からの人の流れをつなぐ



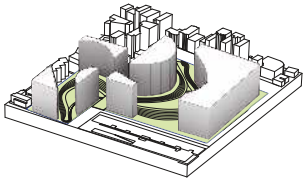

・交通渋滞の解消と動線の多様化

## 03 形態ダイアグラム

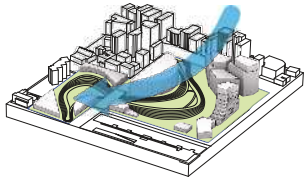
1．敷地に挟まれた道路も
開発対象とする



2．緑と人の流れから
地下に緩やかな広場を計画



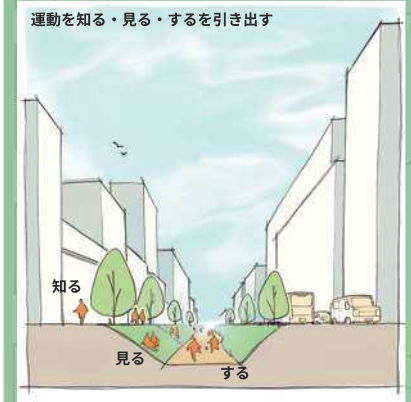
3．広場の余白にボリュームを
立ち上げる



4．日射、自然の繋がりから
北側のボリュームを落とす

## 04 プログラム

## 05 くぼんだ広場と運動




ベッドタウンであり、建物にあふれた街中に、
くぼんだ広場が存在することで
住民がスポーツ、運動を
「知る、見る、する」機会がふえると考える。

大きく以下の三つがこのくぼんだ広場の特徴である。
・住民と運動の離れた関係性を身近にする
・商店街の止まった人の流れを既存の地下通路を通じてつなげる
・歩者分離による従来の交通の問題（人、車、自転車、バスの交錯）を解消する

## 06 広場の道の種類

### 1. メインの道（幅 5m）
広場の中心となる動線。広場の余白に計画されるすべてのプログラムと隣接する。

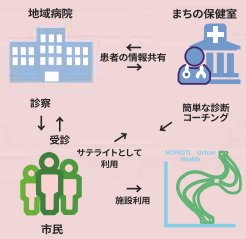
### 2. 最短の道（幅 3m）
メインの道より道幅の少し狭い通路が最短の経路となる。少しでも運動の機会を増やせるのではないか。

### 3. 細道（幅 1m）
広場を横切る細道は目的に応じた抜け道となり利用者に多様な進路の選択肢を与える。

### 4. ランニングコース（幅 1 ～ 2m）
通路を巡るように設けられたランニングコースはランナーに快適な環境を提供する。

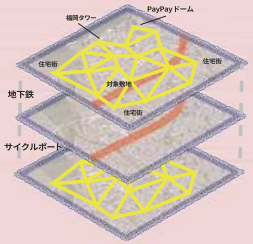
## 07 街とのつながり

### ①地域病院と連携

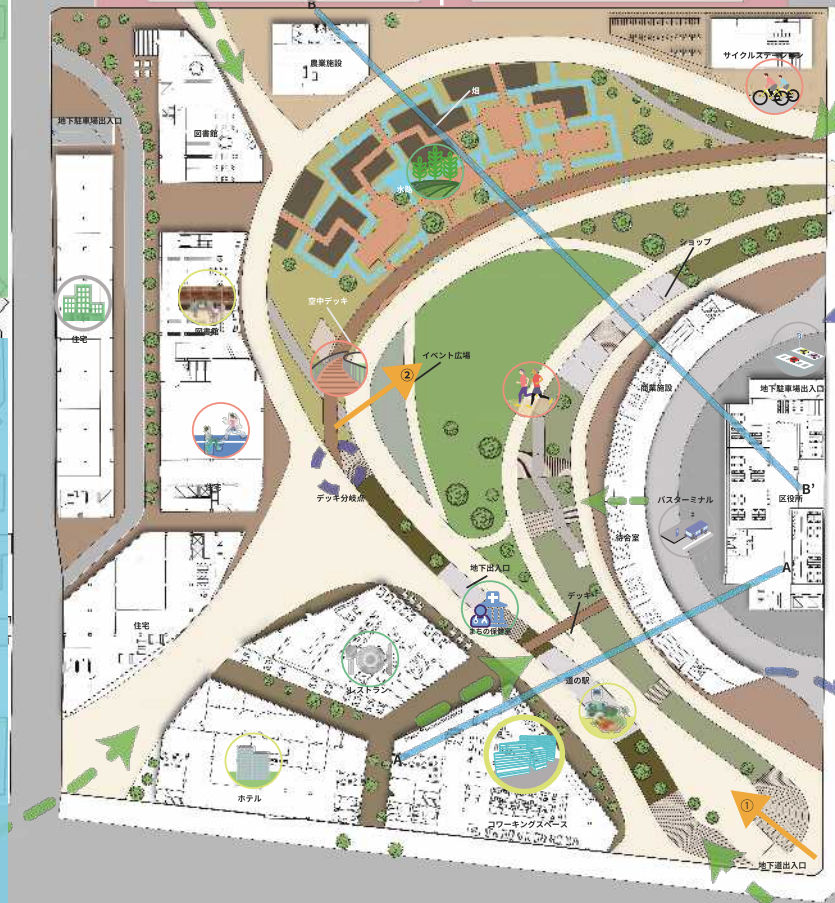


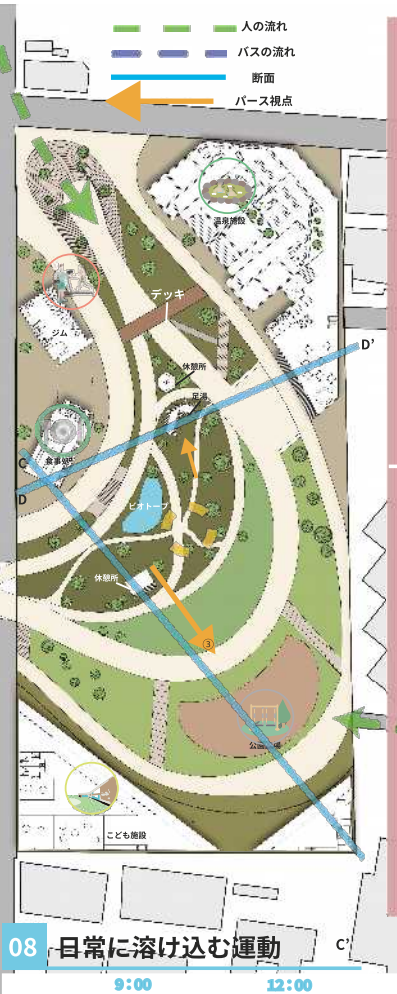

病院のサテライト施設としてまちの保健室を計画
市民は健康常態を手軽に把握できるほか、
リハビリや健康改善のために施設を利用できる

### ②広がる交通網




開発地を中心にレンタサイクルサービスを展開
運動する機会を創り出すと共に
通勤、通学、観光を支える




### ③農園の活用

学童農園や福祉農園としての側面を持ち、
農業を通じて地域交流が行われる。
また、農園で育てられた農作物は
敷地内のレストランや直売所で利活用される。

### ④企業と街の関わり

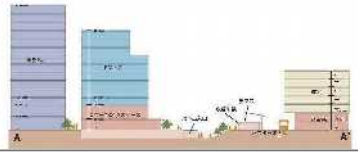
運動・健康促進を掲げる企業を誘致する。広場や屋内遊技場などで企業によるイベントが開催され、住民が運動するきっかけづくりの場となる。

## 08 日常に溶け込む運動

平面図 S=1/1000

## 09 住民と運動をつなぐ広場

南東にある藤崎商店街と地下鉄「藤崎駅」を結ぶ地下通路でつながっており、住民たちが広場に向かう大きな入口である。
大きな交差点が近くにあり、地下鉄出入口、バスターミナルがあり、人が多く行きかう場所である。

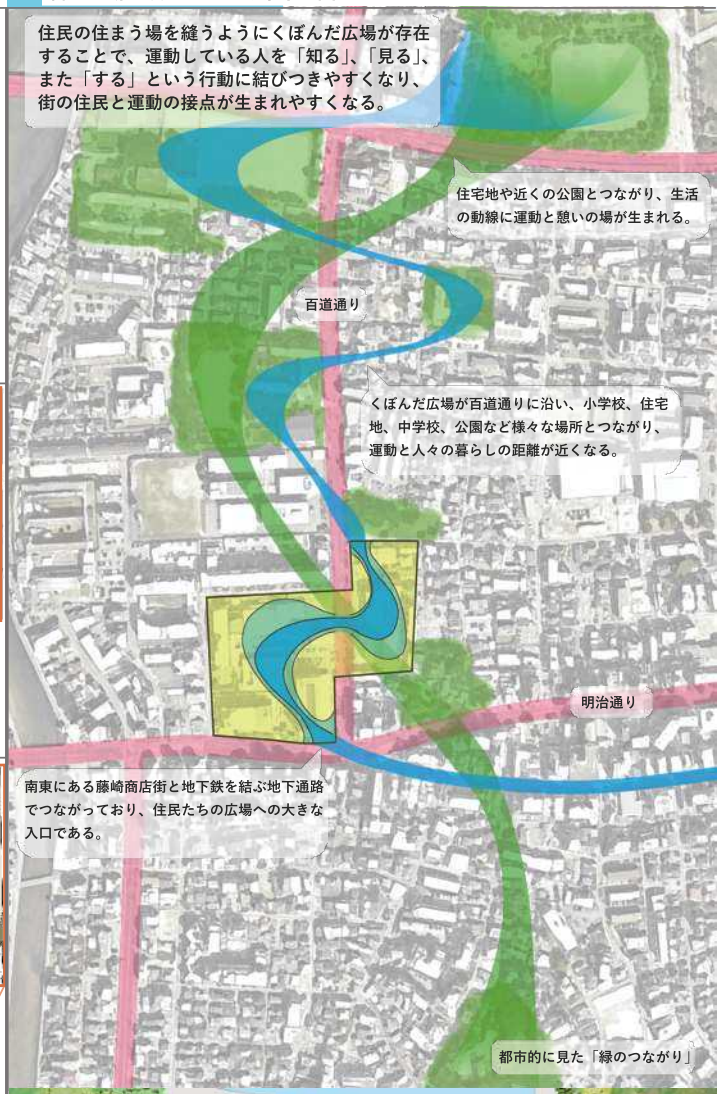
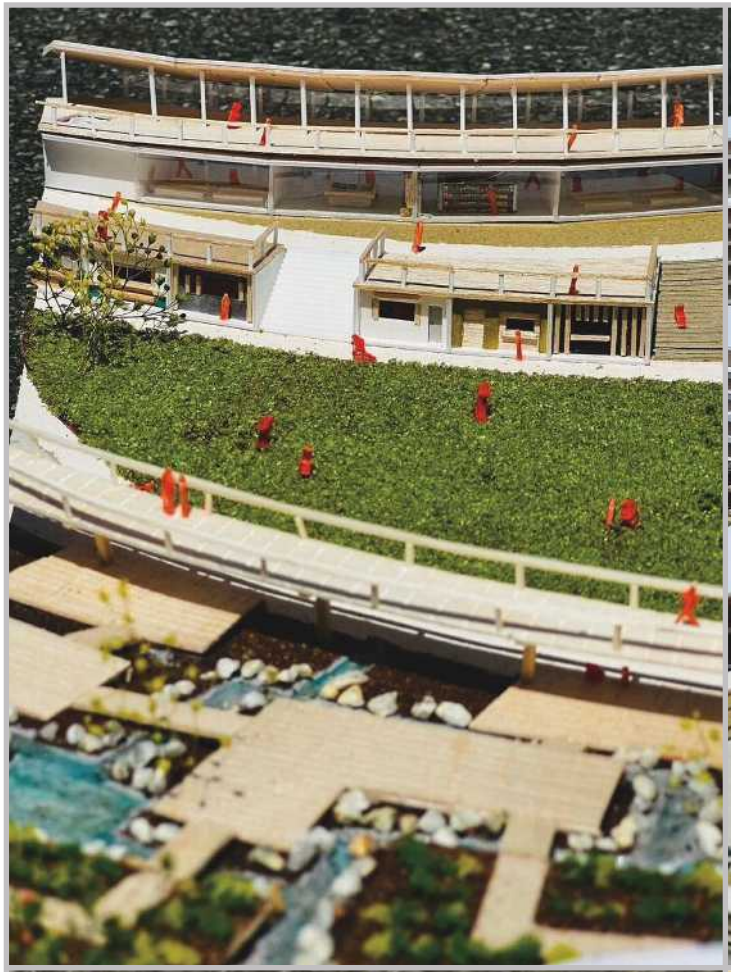
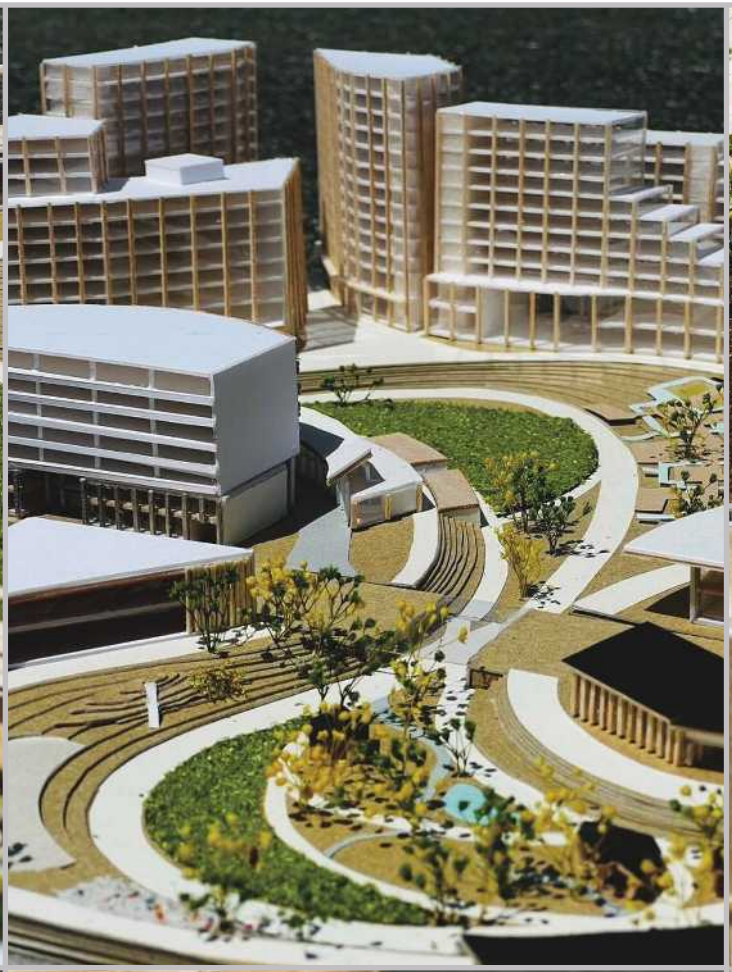


大きな広場では、ヨガ、サッカー、ストレッチなど多様な運動をする人、遊歩道ではそれを眺めながら歩く人、緩やかな斜面では座りながら広場にいる人を眺める人がいる。
時には、イベントの会場となる場を設けることで、街に賑わいを作る。
また様々な道が広場内に存在することで走っている人、お散歩している人、観客の立っている人が見られ、運動だけでなく、ここに住まう多様な人の居場所となる。

広場の先には、斜面の途中にある公園が存在。
子供たちは緑に囲まれた場所で、バトミントンやボール遊び、斜面を利用した滑り台や、ボルダリングなど、都市ではできない遊びができるようになる。
くぼませた広場により、人々と車や自転車を分離できるので、子供も安心して運動をすることができる。
休憩所では保護者が座りながら見守ることができ、道路からは子供が遊んでいる様子が見下ろせ、人々の生活の風景にも移りこむ。

ここは憩いの場として、ランナーの休憩所、子供たちにとっては緑に囲まれ、都市の中で自然を感じる場所となる。街中は自然があまりなく、土遊び、虫探しなど、子供たちは森の探検をするように運動する。
運動には休憩も大切で人々が運動後に集まり、温泉に入ったり、足湯をしたり、寝転んだり、休憩する場所として設けた。

## 10 街に運動が浸透していく未来地図



街に溶け込むくぼんだ広場